

<p>【技術の名称】 NSビーム工法 (Nishimatsu Saving Beam) -強度打ち分けRC梁工法-</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第15-11号 性能証明発効日：2015年7月28日</p> <p>【取得者】 西松建設株式会社</p>
--	---

【技術の概要】

本技術は、鉄筋コンクリート造におけるプレキャスト(以下 PCa と示す)梁のコンクリート強度を打ち分ける工法である。PCa 梁は床スラブ下まで工場製作され、床スラブと同じ位置の梁上部のコンクリートは現場打ちされる。現場打ちされるコンクリートは床スラブと同じコンクリート強度とし、工場製作部分のコンクリート強度の1/2以上である。梁の設計は床スラブの効果により高強度の工場製作部分のコンクリート強度を用いて設計可能であるとしている。

梁上部のコンクリートの設計基準強度は、梁下部のコンクリートの設計基準強度の1/2以上とする。

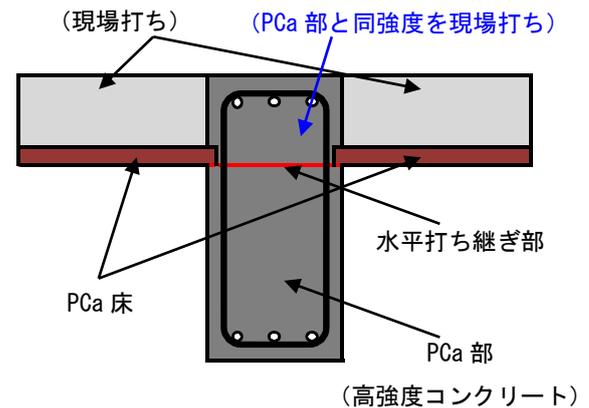
【技術開発の趣旨】

既往のPCa 梁工法では、梁下部を工場製作として、その上部には同一強度の高強度コンクリートが現場打ちされる。一般的に床スラブのコンクリート強度は梁に比べて低強度の場合が多いことから、PCa 梁工法では梁に取り付く床スラブと梁上部とのコンクリートの打ち分けが必要となる。本工法は、梁上部に床スラブと同一強度のコンクリートを打設する工法であり、打ち分けの必要がなく、施工の合理化・省力化を図るものである。

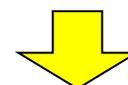
○鉄筋

- ・規格：JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) の規定に適合する異形棒鋼
- ・種類 梁主筋：SD345、SD390、SD490
 せん断補強筋：SD295A、SD295B、SD345、SD390、SD490、および国土交通大臣の認定を受けた高強度せん断補強筋 (785N/mm² 級以下)

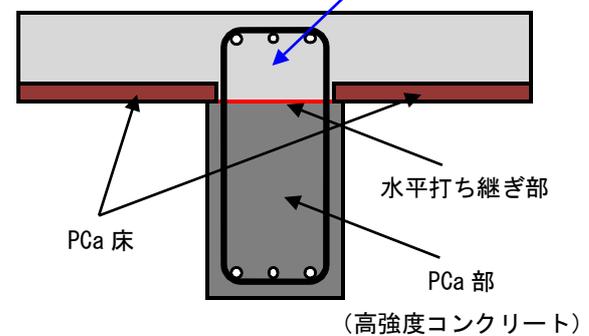
すべり防止筋：SD295A、SD295B、SD345
 スラブコンクリート 梁上部コンクリート



従来の工法



梁・スラブコンクリート
 (スラブと同強度を現場打ち)



NSビーム工法

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「NSビーム工法 設計・施工指針」に従って設計・施工された梁は使用限界時(長期荷重時)に使用上の支障が生じず、損傷限界時(短期荷重時)に修復性を損なう損傷が生じない。また、安全限界時(極めて稀に発生する地震時)に同指針で定める終局強度と変形性能を有する。

○技術の適用範囲

○コンクリート

- ・種類：普通コンクリート
- ・設計基準強度 (Fc)：24~60 N/mm²

【本技術の問合せ先】

西松建設株式会社 技術研究所 建築技術グループ 担当者: 金川 基 E-mail: motoi_kanagawa@nishimatsu.co.jp
 〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 4054 TEL: 046-285-7101 FAX: 046-285-7104